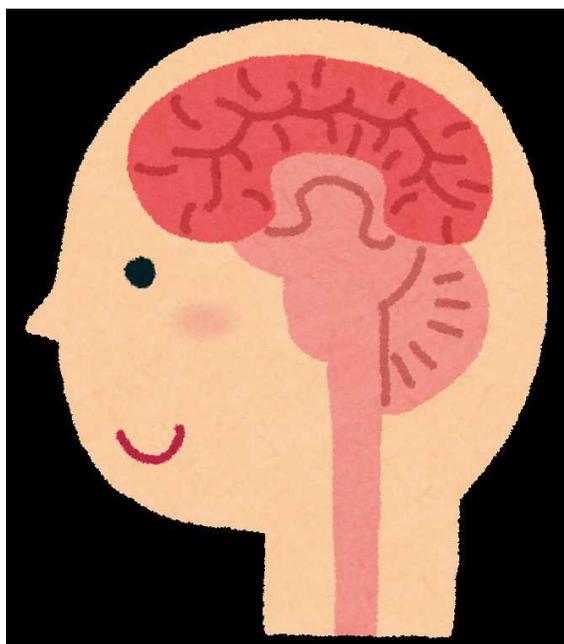


令和7年度高知県発達障害児等支援スキルアップ研修

# 『発達障害児の 感覚特性について』



高知県立療育福祉センター

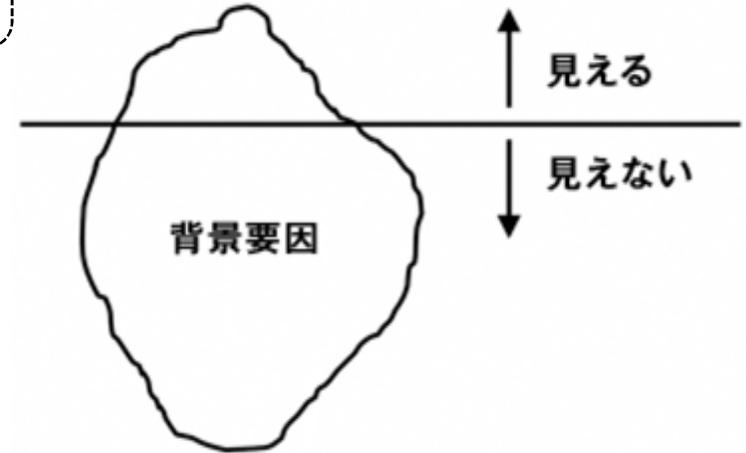
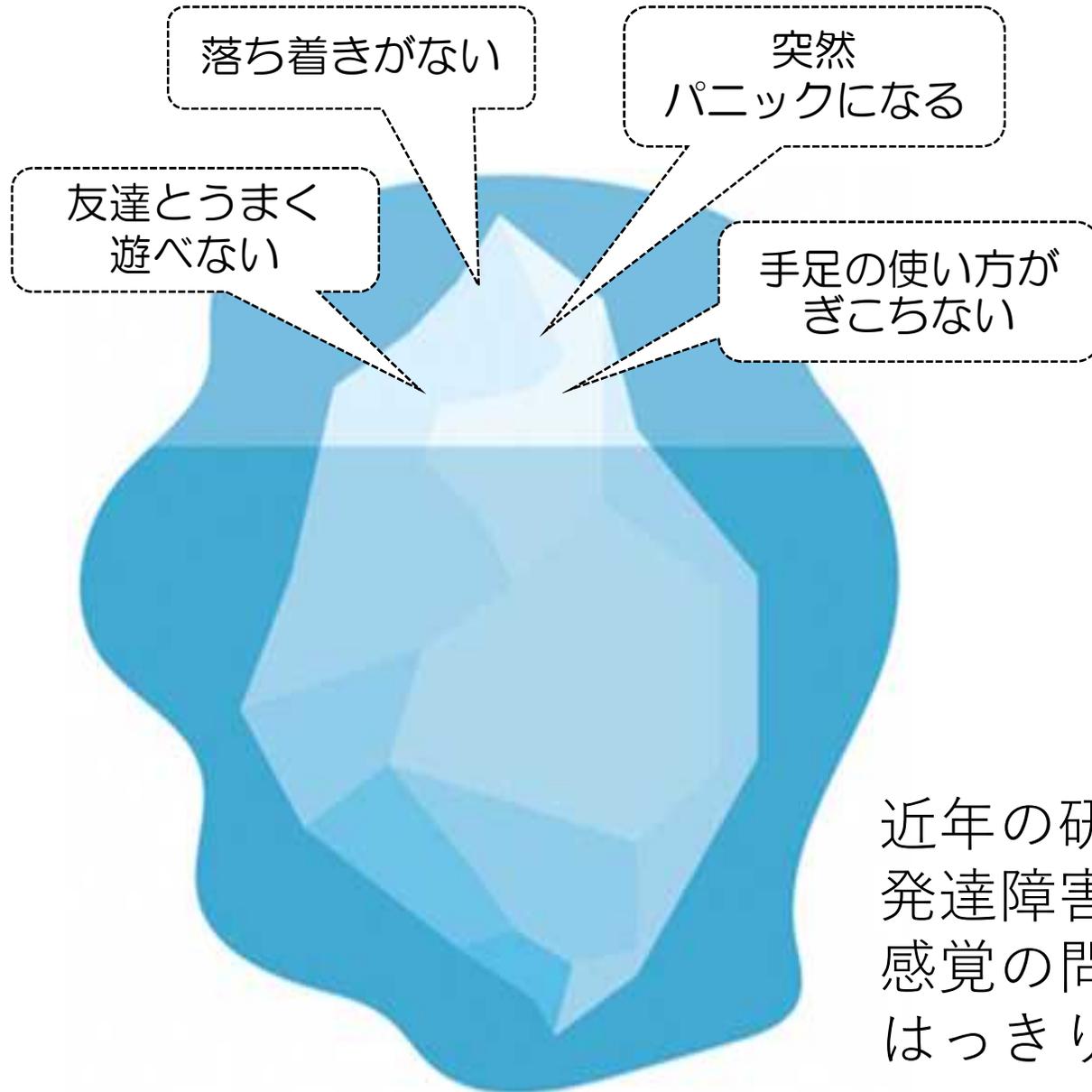
作業療法士

池 みつ江

# 今日のお話

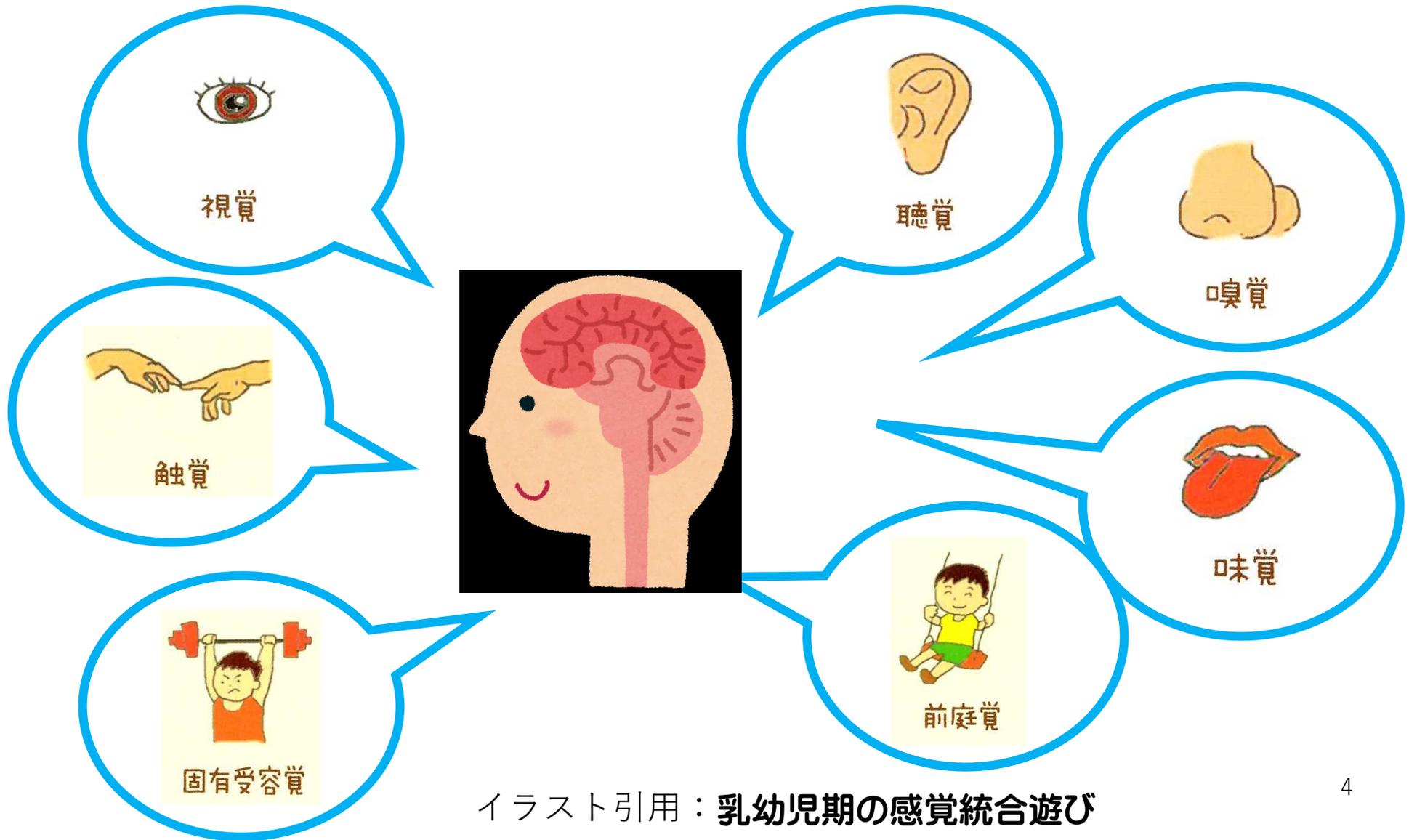
1. なぜ感覚特性を学ぶのか
2. 感覚とは何か
3. 脳は感覚をどう処理しているか
4. 感覚をどう評価するか
5. 具体的な困りごとの例
6. 配慮・支援について

# 1. なぜ感覚特性を学ぶのか



近年の研究の中で、  
発達障害児の困りごとの背景に  
感覚の問題があることが  
はっきりしてきた

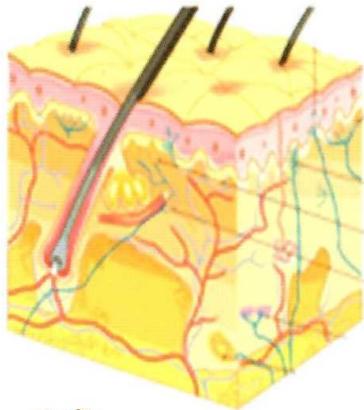
## 2. 感覚とは何か？



イラスト引用：乳幼児期の感覚統合遊び

# 触覚 (表在感覚)

受容器 (感じる場所)



皮膚

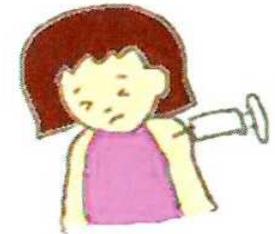
- ① 情緒を安定させる
- ② 身体を守る (防衛)
- ③ 素材を識別する
- ④ 身体図式を把握する

種類

触れたことを  
感じる



温度



痛み

# 固有受容覚 (深部感覚)

筋力加減、運動コントロール、抗重力姿勢、  
バランス・情緒の安定、身体の地図・機能の把握

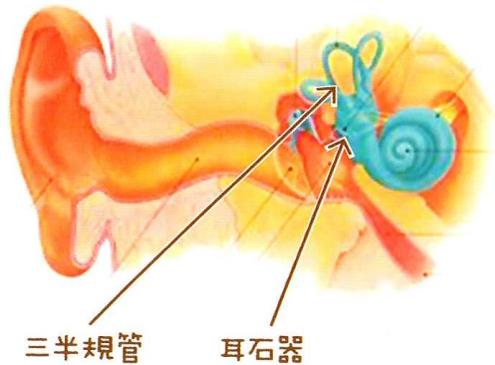


- ① 身体の動きを把握する
- ② 姿勢を保つ
- ③ 力加減を調整する

# 前庭覚 (平衡感覚)

覚醒、抗重力姿勢、バランス、  
身体の機能の把握、眼球運動

受容器 (感じる場所)



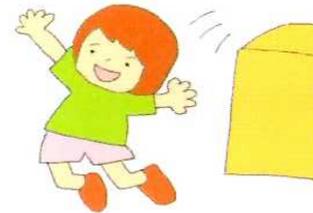
種類



揺れ



化頃き



重力



スピード

- ① 身体の傾きを感じる
- ② 回転を感じる
- ③ 重力を感じる
- ④ 加速度を感じる

# 五感



嗅覚



聴覚



触覚



味覚



視覚

意識しやすく  
自覚しやすい感覚

# 3つの 初期感覚



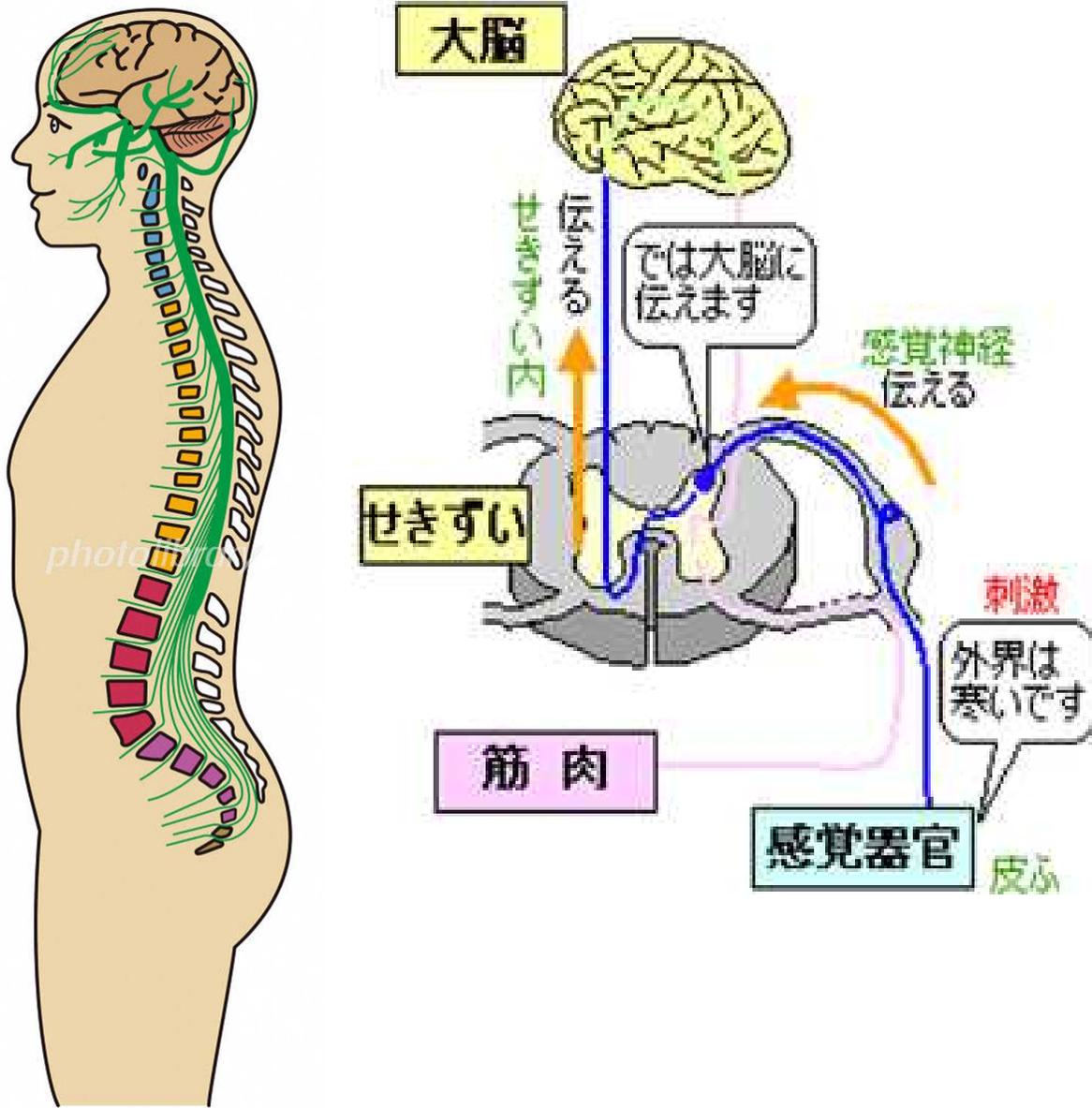
固有受容覚



前庭覚

ほとんど無意識のうちに  
使っている感覚

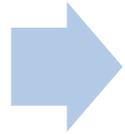
# 3. 脳は感覚をどう処理しているか



皮膚からの感覚刺激は、  
せきずいを通して、  
脳に伝えられる  
=小5の理科= 9

# 脳が、感覚刺激を処理している

感覚刺激



判断



行動



視覚



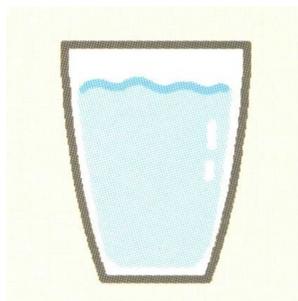
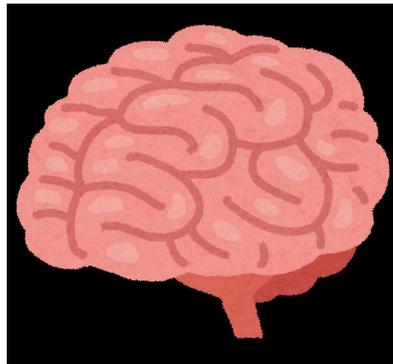
聴覚



嗅覚



味覚



目をつぶる

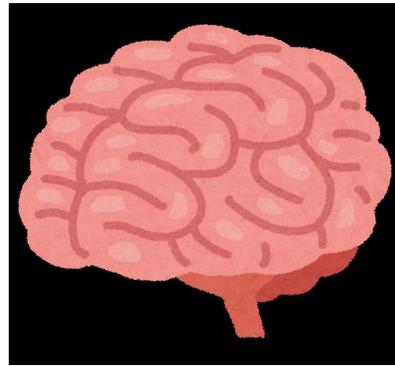
返事する

鼻をつまむ

おいしい

脳は、どんな処理をしている？

① 感覚情報の「量」



② 感覚情報の「交通整理」

# 感覚のコップの大きさによる違い

**敏感**

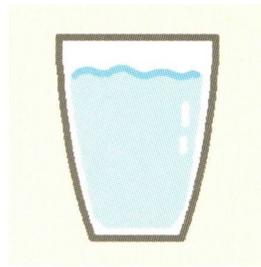
(過敏・過反応)

**鈍麻**

(鈍麻・低反応)



感覚のコップが小さく、少ない情報量であふれてしまっている状態。



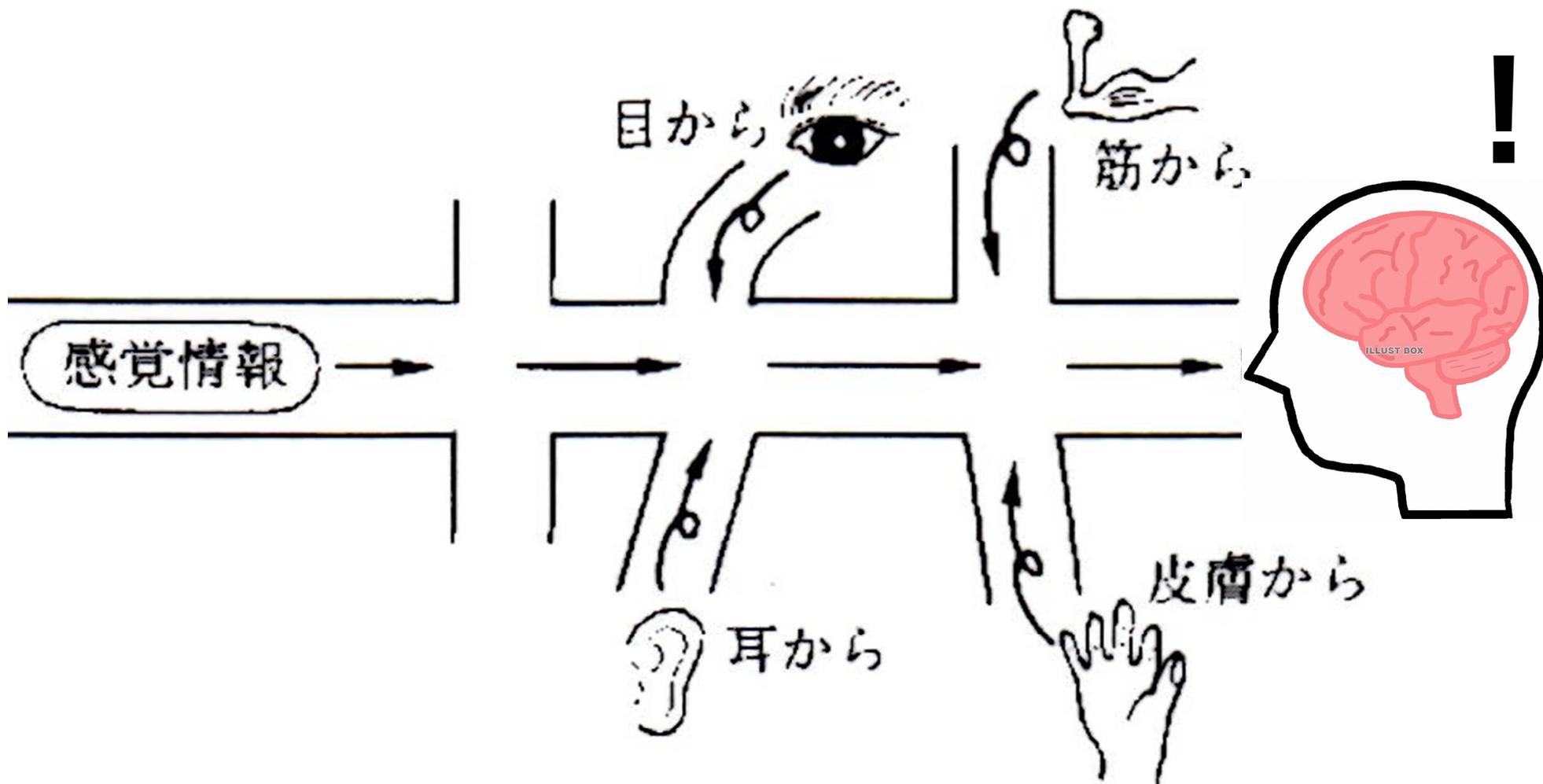
コップの大きさに対して、情報量がほどよく収まっている状態。



感覚のコップが大きいにもかかわらず、情報量が足りていない状態。

**感覚の受け取りは、人によっても、感覚刺激によってもまちまち**

# 感覚の交通整理 —うまくいくと—



# 4. 感覚をどう評価するか

## ① 行動観察

## ② JSI-R

## ③ 感覚プロフィール

## ④ 感覚・動作アセスメント

①の行動観察と、②～④の質問紙スタイルの両方の視点から評価する場合が多い。

質問紙スタイルの場合、記載する人が子どもをどう見ているか（評価しているか）によって、結果が大きく変化する。

（父は「少ない」と答えたのに、母は「多い」と答えるなど）

**感覚の特性が、行動にどう影響を与えるかを、保護者に知ってもらうことを最優先にしている。**

# 感覚プロフィールの種類

## ①乳児用感覚プロフィール(ITSP)

0～6 か月は36項目、7～36か月は48項目  
子どもの生活の様子をよく知る養育者が回答する

## ②感覚プロフィール(SP)

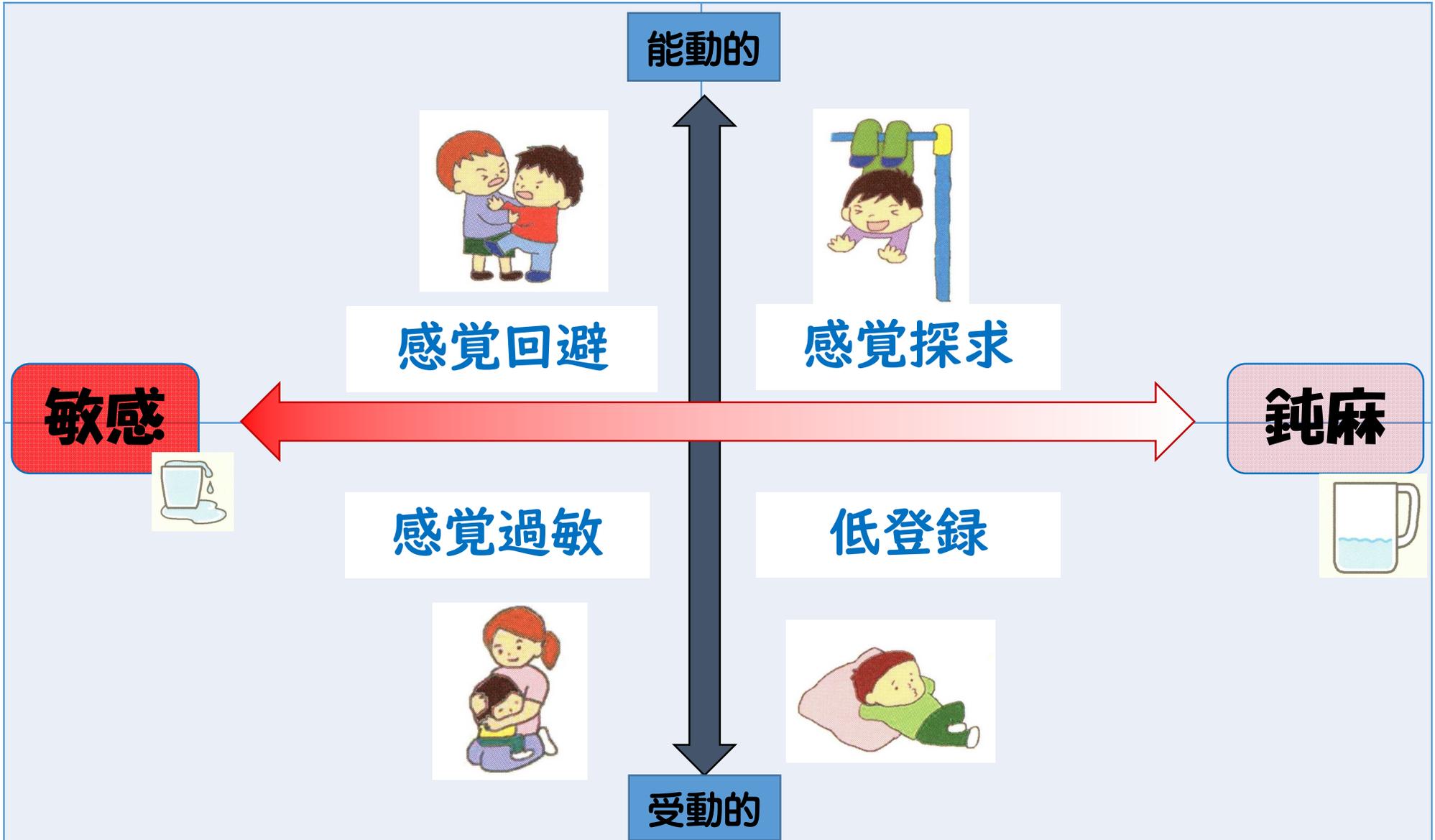
3歳～10歳。125項目。  
養育者が回答する

## ③青年成人感覚プロフィール(AASP)

11歳以上。60項目。自己回答式の質問紙



# 感覚評価の結果



# 5. 具体的な困りごとの例 —当事者の発信から—



# 困りごとの例

景色がまぶしすぎる

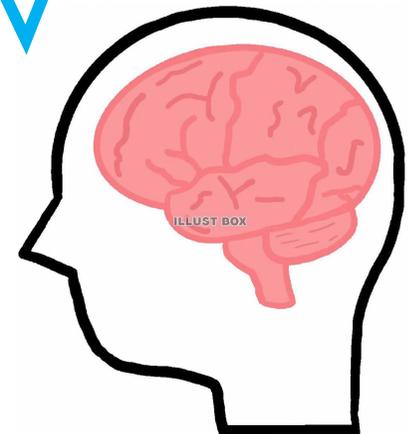
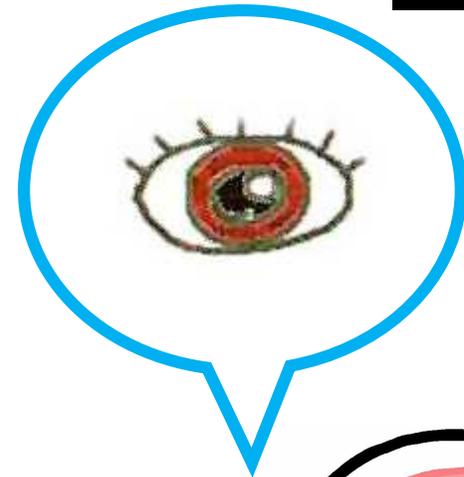
苦手なイラストや色の組み合わせがある

蛍光灯や電球のチカチカ点滅するのがわかる

白紙に印刷された字が読めない

薄く色が入っためがねをかけています

(視覚情報)



# 困りごとの例

## (聴覚情報)

蛍光灯の「ジジジ」という音が気になる

自分自身の鼓動が聞こえる

友達の声が耳に刺さる

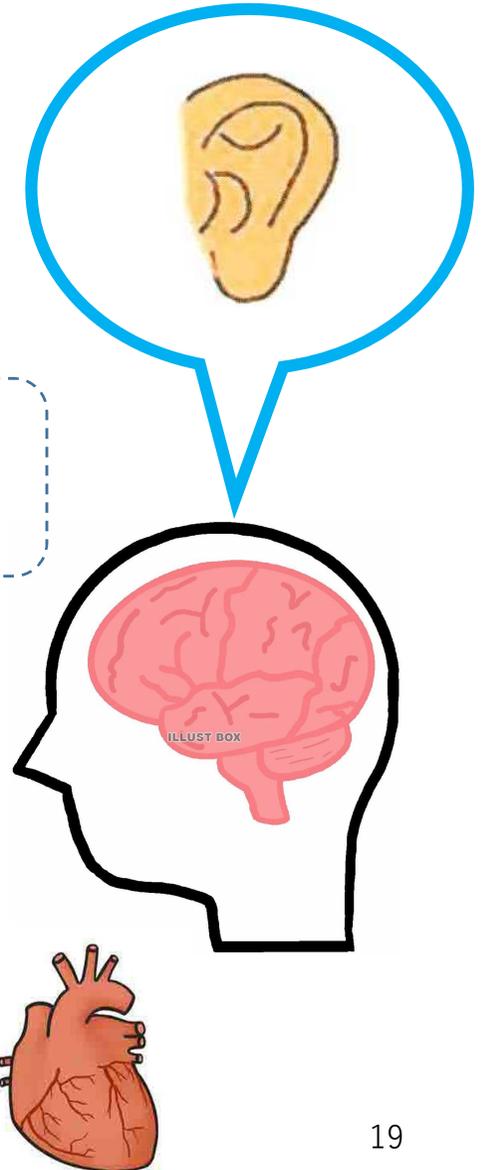
耳鳴りがするが、治部かでは悪いところがないと言われる

教室のざわつきで苦しくなる

刺激が欲しくて耳を叩きたくなる

聞きたくない悪口も聞こえてくるし、自分のことじゃなくても聞こえてしまうから、ついつい口を挟んでしまう

どの声に着目していいのかわからない



# 困りごとの例 (におい・食べる)

お母さん！今日のご飯はくさい！研ぎ方が足りません。

石鹸、香水等の匂いで気持ち悪くなる

自分のにおいへの違和感を感じづらい

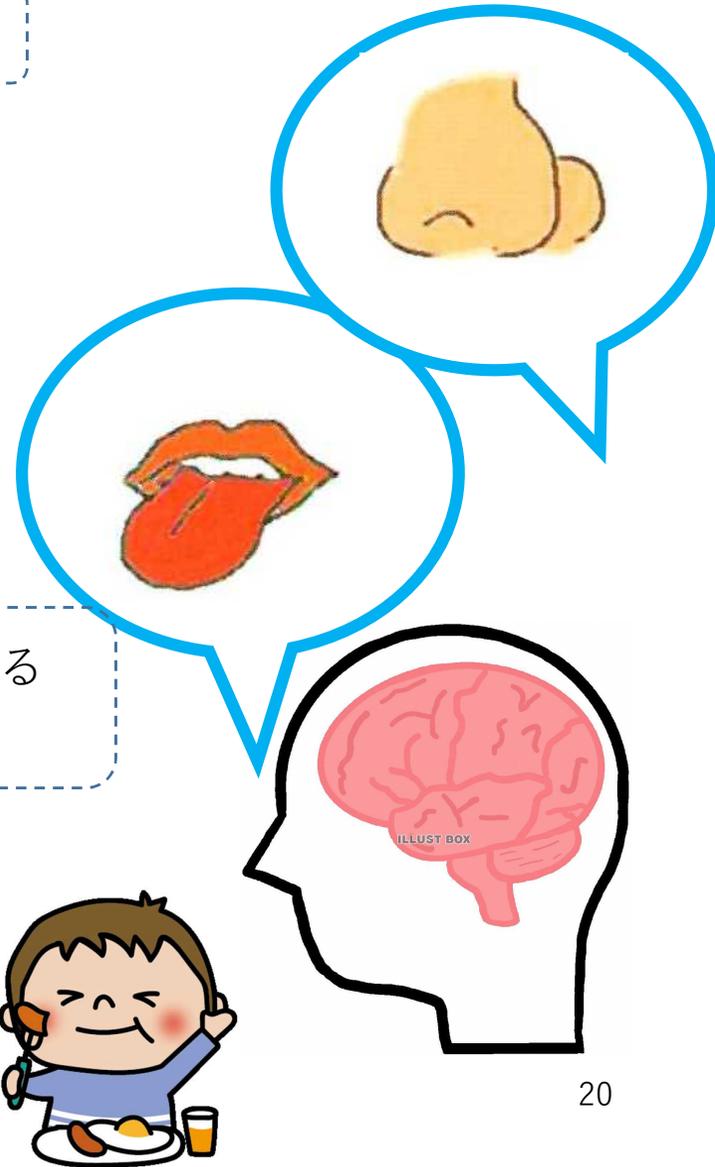
変化が苦手で、決まったものだけ食べたい

これは肉ですか、魚ですか？  
固いですか、柔らかいですか？

食感、にゆるにゆる  
と噛み切れない

キュウリとかタマネギって、噛んだとき、  
耳の奥で『シャリシャリ』っていうやか！

白ご飯は白ご飯だけで食べたい。  
味が混ざるのはイヤ



# 困りごとの例 (触刺激)

手をつなぐのが苦手

(集会とか体育で) 友達と並ぶのがイヤ

ハンバーグをこねるのは苦手です。

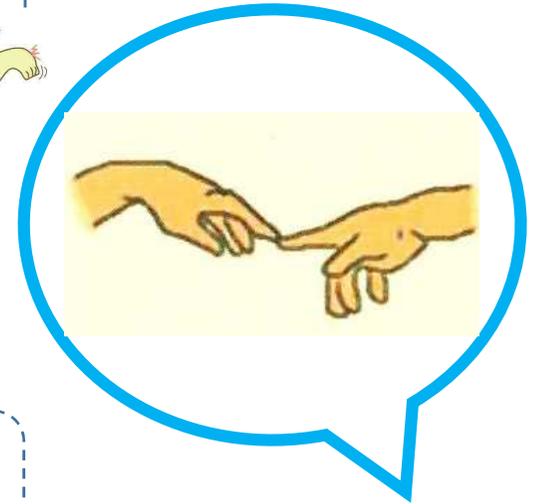
くつ下を履きたがらないんです。

特定の素材の服を好む

打たせ湯の気持ちよさがわからない。ただ痛いだけ

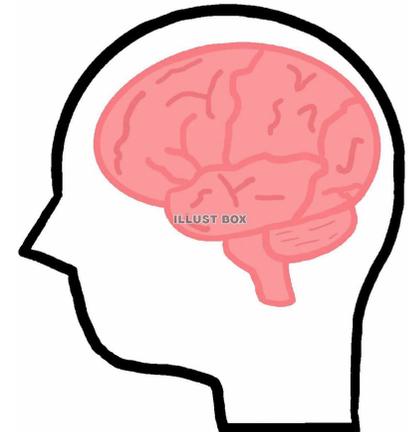
知らんおっさんがずっと首根っこや足のかかとのところをつかんでる感じ

タートルネックのセーターの首がすぐ伸びる



髪の毛が顔にかかるのがだめ

刺激が欲しくて身体を叩きたくなる



# 触覚防衛反応について

## 原始系



目や耳を進化させていない下等な生物は、生きていくために触覚を働かせて、エサを取ったり敵から身を守ったりします。

## 識別系



一方、高等な哺乳類になって得たのが『識別系』機能

- ・対象に注意を向け、物の質感、形、サイズを触り分ける
- ・体の触れている部分を意識できる

皮膚からの刺激が原始系に入って、本能的な反応が優位に出る場合がある。この状態を、『触覚防衛反応』という。

- ・命にかかわる首、顔、頭、脇腹、攻撃に使う爪、歯など触れられるのを特に嫌がる

# 困りごとの例 (触刺激)

手をつなぐのが苦手

(集会とか体育で) 友達と並ぶのがイヤ

くつ下を履きたがらないんです。

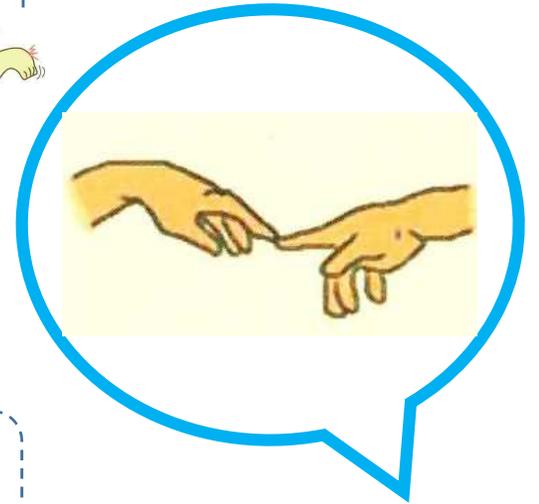
特定の素材の服を好む

打たせ湯の気持ちよさがわからない。ただ痛いだけ

ハンバーグをこねるのは苦手です。

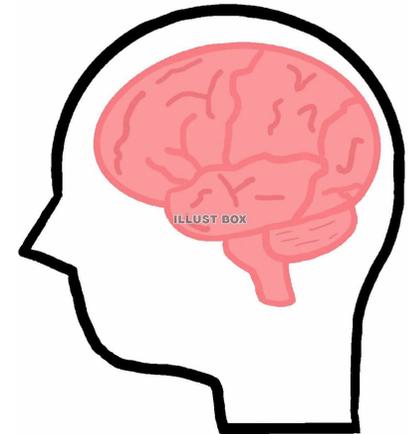
知らんおっさんがずっと首根っこや足のかかとのところをつかんでる感じ

タートルネックのセーターの首がすぐ伸びる



髪の毛が顔にかかるのがだめ

刺激が欲しくて身体を叩きたくなる



# 困りごとの例

## (固有受容覚)

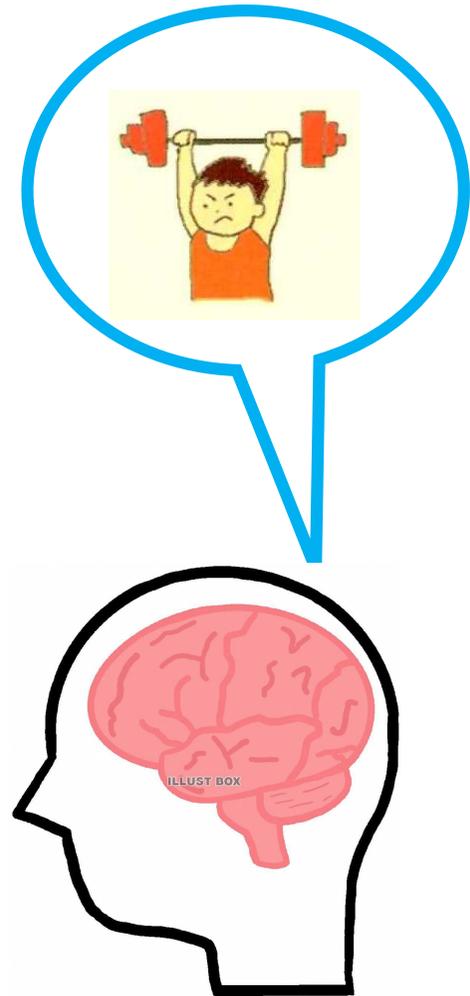
こたつに入ると足がなくなる

体操やダンスなど身体を動かすときは  
いちいち考えながら動く必要がある

いつもぴょんぴょん跳びはねている

力加減が難しい

自分の体調が感じづらい



# 困りごとの例 (前庭覚)

ブランコは苦手

車酔いをします

姿勢保持が苦手

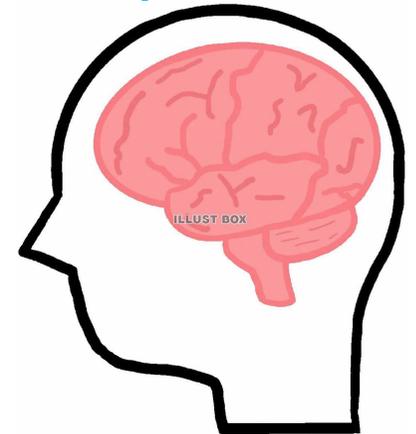
他の人が気がつかないくらいの  
小さな地震にも気がつく。  
気分が悪くなる。

いつもぴよんぴよん飛び跳ねてい  
る

何もないところでバランスを崩し  
て転びそうになったり、転んだり  
する。

ぐるぐる回らないと  
落ち着かない

前庭感の検査ができ  
なかった



# 困りごとの例

## (複合感覚)

距離感がわからないため人に抱きつくのが好きで、特に気に入っているお友達や家族に抱きつく。

感情の鈍麻、自分の気持ちや感情がわからなくなることがある。特に怒りがほとんどわからない。

暖房の風があたるとぼわーんと身体の輪郭が溶けていく感じがする。

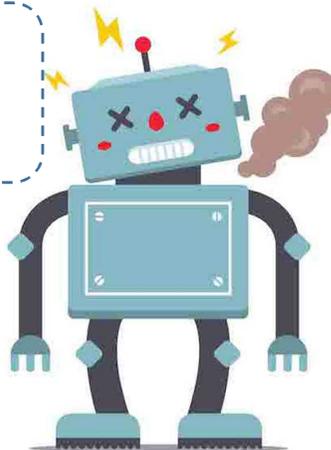
急に体調不良に見舞われ、救急車で運ばれる

歯医者

口を閉じるとか、静かにするとかいわれても、そのやり方がわからないのです。

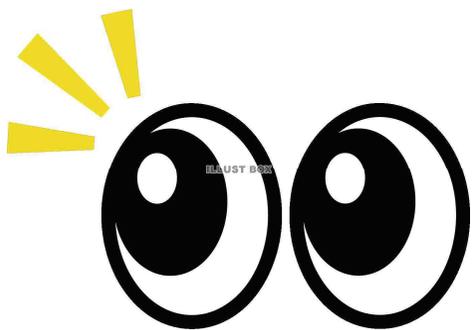
僕たちは自分の身体さえ自分の思い通りにならなくて、じっとしていることも、言われたとおりに動くこともできず、まるで不良品のロボットを運転しているようなものです。

声だけで人の気配を感じたり、自分に問いかけられている言葉だと理解することはとても難しいのです。



## 6. 配慮、支援について





**まず、大人が気づくこと!!**

**①原因をとりのぞく、はなれる、避ける  
(環境調整)**

**②アイテムを活用する  
(感覚グッズ)**

**③こころの準備や理解ができるように  
説明する**

**(今から大きな音が○回鳴ります)**

## 具体的な支援の例

- イヤーマフ、ノイズキャンセリングイヤホン
- パーテーション
- 足下に人工芝を敷く、椅子の足にボールをつける
- 練り消しゴムをこねさせる
- 噛む代替え品を見つける
- チェーンブランケット
- カームダウンルーム
- ピストルをやめる
- 服の素材に配慮する
- タグを外す

# 支援の方法

刺激の段階づけ  
ブランコの揺れをいやがる子ども

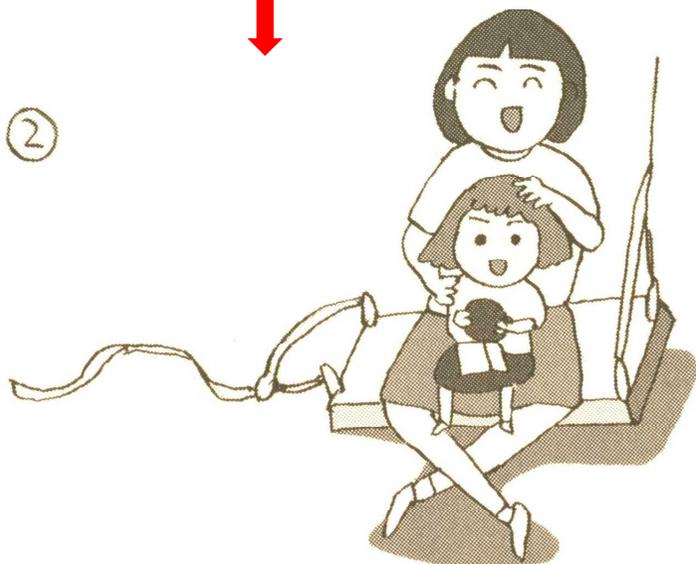
①



床の上に置いた  
スイングの上で  
遊んでもらう



②



片方を吊り上げた  
スイングの上で  
親と遊んでもらう

③



両方吊り上げた  
スイングの上  
足を床につけて  
座ってもらう



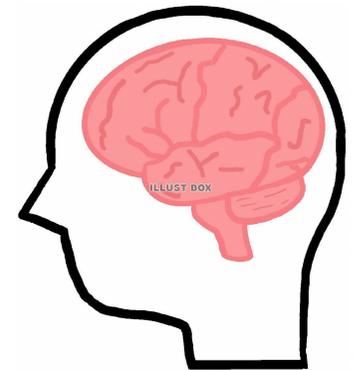
出典：もっと笑顔が見たいから  
岩永竜一郎

# 感覚への反応の背景

からだ  
(感度)

こころ  
(気分・感情)

情報処理  
(脳の交通整理)



# 五感



嗅覚



聴覚



触覚



味覚



視覚

# 3つの 初期感覚



固有受容覚



前庭覚

## 感覚調整の問題:

イライラ、かんしゃく、自傷、他害、偏食、多動、  
落ち着きのなさの元になる

## 運動行為の問題:

文字が雑、ボール遊び苦手、  
姿勢の問題、学習の問題

# まとめー感覚の受け取りには、違いがあることを知っておくー

**周囲の大人が気づく**

3歳のころから、『自分だけ違う』と感じていた。

**本人自身が他者との  
違いに気づく**

やっぱりそのしんどさは、入園から始まりました。

その晩、怒られなかった。  
お母さんと一緒に感覚探検した。

**一緒に  
手立てを考える**

お母さんが一緒に手立てを考えてくれた。

# 大切なこと

- ・「こんなの平気やろ！」と押しつけない。
- ・支援者が『なんとかしてやろう』と思わない。
- ・誰にでも、同じ支援が当てはまらないことを知っておく。
- ・支援者自身の、常識・価値観を覆すつもりで。
- ・すべきことは、  
『理解すること、しんどさに共感すること』
- ・発信できない、表現できない困りを  
『聞き出せるか。』 『想像できるか。』

## 参考文献・引用文献

- 「乳幼児期の感覚統合遊び」 クリエイトかもがわ 加藤寿宏  
「感覚過敏の僕が感じる世界」 日本実業出版社 加藤路瑛  
「感覚統合の発達と支援ー子どもの隠れたつまずきを理解するー」  
金子書房 A・ジーン・エアース 岩永竜一郎 訳  
「発達テコボコな子どものための感覚運動アプローチ  
もっと笑顔が見たいから」 花風社 岩永竜一郎  
「発達障害の私がすごした保育園のときの話」  
株式会社メイト ざくざくろ  
「保育士が知っておきたい気になる子の感覚統合」  
Gakken 木村順  
「あっくんはたべられない 食の困難と感覚過敏」  
世音社 あっくん

## 参考文献・引用文献 2

「感覚凸凹なボクの世界 -感覚過敏を探検する-」

ゆまに書房

プルスアルハ

「自閉症のボクが跳びはねる理由」

角川書店

東田直樹

「だから毎日、幼稚園に通えた」

世界文化社

東田直樹